

議長 任期途中で交代 正副議長に深田氏と吉井氏

6月定例会が6月8日から開催されました。一般会計補正予算で約一億六千万円余。主な歳出では市民バス運行事業見直し（大東 三刀屋でデマンドバス導入実証実験等）計9百万円余。がんばる地域応援総合事業（生産組織等が実施するハード・ソフト事業に助成）約2千3百万円余。1月に実施される市長・議員選挙のポスター経費公費負担分8百万円余等を可決承認。議会最終日 藤原議長から辞表提出。今議会開会直前に入院手術され今後通院加療が必要とのことで任期を約5カ月残して辞任。（早期回復を祈ります）。副議長も辞任交代、委員長の一部にも変更が有りました。残任期間はわずかですがご協力をお願いします。

高速バスの市内での停車 54号バス便の確保要請

平成25年3月に尾道・松江道が三次で中国道と繋がり松江・広島間が高速道で直結します。今高速バス事業会社（中国JRバス、広島電鉄、一畑バス）では路線の見直しが検討されています。もし全便高速道路経由で運行された場合54号沿線利用者に大きな影響が出ます。国道5号高速バス対策連絡会では既存ルートへの何

雲南市立病院建設 基本構想案を提示

市立病院西棟は昭和42年建設以来50年が経過。3月議会で28年度中に主要施設を完成する方針が示され、6月全協で基本構想案が示されました。建築について一部改築全面改築 移転新築で検討の結果既存の設備品の活用で事業費が少ない一部改築を選択。総事業費65億円。基本理念 地域に親しまれ、信頼され、愛される病院。今年度基本構想の審査。場所・財源・医師確保など審議

便か確保と市内高速各バス停に停車することを強く要望しています。これまで各社から正式な回答はなし。約7割が松江・出雲から広島間直行利用だと云われます。バス停までの市民バスの乗り入れなど沿線住民の利便に配慮と市内バス停に入る高速バス増便の強力な要請を求めます。



開通して格段に近くなっただの吉田町。市内54号バス便確保・大きな課題です

名著・語り部に見る 杉谷大鍛冶屋 大工職 渡部平助さん

杉谷大鍛冶屋 田井村矢入杉谷大正14年まで操業が行われた大鍛冶屋大工II家を建てる大工さんではなく鉄を加工する職人を大鍛冶大工と呼んだ。渡部平助さん・明治32年生れ名大工であった祖父政兵衛の跡を継ぎ大鍛冶大工職に従事。大正14年閉鎖されるまで名大工として活躍された。大鍛冶屋とは「たたたら」で作られる鋼（けら）の約3割が鋼でその他大部分は鋼とも銑（ずく）ともつかない雑鉄でありこれを製品にするため工夫された錬鉄技法が大鍛冶屋である。銑（ずく）は炭素量が多くそのまま使用でき



杉谷大鍛冶場と金屋子さん。桂の大木も見える。大正前期頃の写真か？上山出身故堀江龍一郎氏提供写真（米子市在住）

ないため脱炭して鋼と調査して需要の多い包丁鉄に加工した。作業の行程で鉄は打てば打つほど固くなるため「包丁鉄は少なくて打って形を造るのが大工の上手」と言われた。杉谷の鉄は大坂の鉄問屋や農具・包丁を造る野鍛冶の間で錆びにくく加工しやすい良鉄として名が通っていた。大鍛冶屋には大工の他真つ赤に焼けた鉄を大槌で打ち延ばす手子（てご）と呼ばれる職人があり大工と手子がトッテンカと呼吸を合わせ鉄を生産した鉄の歴史博物館で「名大工渡部平助氏」に会う事が出来る。「田部清蔵氏著語り部から」

地域活性化インターの名称 雲南吉田インターチェンジ

吉田町・木下地区に設置される地域活性化インターが正式インターとして認可されました。名称について吉田・掛合・雲南市関係者で協議、表記の名称に決定し国交省に申請されました。活性化施設もやがて着手し来春には完成します。島根県・雲南市南の玄関口として受け入れ準備が急がれます。いよいよ鉄の歴史村の出番です。

編集後記 高速道の開通で救急車両の出動体制も見直されます。高速は追い越し車線が少ない、事故時迂回路が無い等課題も有りとか。今後頑張って行きます。よろしく